

匝瑳市市民協働推進協議会（令和4年度第1回）会議結果概要

- 開催日時 令和4年7月14日（木） 午後1時30分から午後2時50分まで
- 場 所 匝瑳市役所議会棟 第2委員会室
- 出席委員 平山新治委員、加瀬功一委員（副会長）、林裕幸委員、大久保彰彦委員、勝又康之委員、大木三喜男委員（会長）、那智博行委員、熱田直美委員（8名）名簿順
（欠席委員）片岡裕子委員、越川竹晴委員、大木悟委員、森田俊一委員（4名）
- 市出席者 （事務局／環境生活課）林雅之課長、小林直己主査（統括）、大木寛幸主任主事

発言者	内 容
議 長	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ（大木会長）</p> <p>3 委員紹介 《推薦団体の役員改選等により委員に変更があり、新たに就任した2委員を紹介する》</p> <p>4 市民提案型事業提案書の審査 《省略》</p> <p>5 議 事 （1）匝瑳市市民協働等に関する市長への要望について 《本件、資料作成者である会長が説明者（提案者）となるため、副会長が議長を務める。資料説明の後、意見交換を行う》</p> <p>・本協議会は、市長に対し「意見書」を提出することができる。会長の提案を整理すると、1点目は、三位一体の活動が求められているということ。三位一体ということ自体が協働になるということであり、こういう視点で推進していく必要がある。2点目は、一部負担を伴わない継続した活動資金の支援ができないか。これは、継続して事業に取り組んでいける環境をつくることが重要であるということ。3点目は、「市民活動サポートセンター」の強化が必要である。これは、この協議会が発足した当初から言われていることである。サポートセンターはあるが、機能していない。なぜかというと、人手が足りない。人材的・財政的余裕がない。サポートセンターが機能することで、協働の推進を図ることができるというもの。以上、3点を市長に意見書として提出したいということであるが、本件について委員から意見を伺う。</p>

会 長	・各委員の賛同が得られれば、事務局で意見書の原案を作成し、皆さんに配布した上で市長に提出するという方式をとっていきたいが、それでどうか。
議 長	・異存がなければ、それをお願いします。会長の提案以外にも、協働の推進について意見として提出したいことがあれば伺う。
A委員	・よい提案だと思う。地域に目を向けると、複数の組織で活動目的や人材が重複している。地域振興もその一つだが、活動資金もそれぞれの団体に出ている。組織を再構築して、わかりやすく活動しやすいものにしていってはどうかと思う。予算面も含めて、地域の活動にも取組に差があり、組織を一体化して再構築できればよいかたちになるのではないかと考えている。
会 長	・幅広い団体が参画し、地域の活動の中心を担っている地区社会福祉協議会の中に部会を作って対応している実態もある。各組織が有効に機能していればよいが、「横ぐし」がなく、うまくいっていない。地域の実情に合わせて取り組んでいければそれでよいが、解決していかなければならない課題である。
議 長	・同じような取組を行っている団体が多くあり、オーバーラップしたりバッティングしたりしている。市民協働について各団体をコーディネートするのがこの協議会であり、うまく繋いでいくのがサポートセンターであると思うが、これについて事務局はどう考えているか。
事務局	・サポートセンターに専任の職員が配置できれば、地域の課題解決がスムーズに進むものと思われる。
B委員	・市民が協働というものをどの程度理解しているかと考えてみると、私は決して十分ではないのではないかと感じている。令和4年2月8日付けの資料中、令和4年度の市民活動の方向性として、「全体から地区（地域）活動に」と記載がある。市全体ではテーマを定める程度にして…とあるが、匝瑳市では今、協働で何が必要か、何をやるべきかということ、協議会がリーダーシップをもって方向を示すべきと考える。
C委員	・市民提案型事業に「団体ステップアップ支援」というものがあるが、ステップアップ支援だけでなく継続支援という項目をプラスしてはどうか。一定の検証をした上で事業の継続を支援する仕組みを取り入れてはどうかと考えている。ステップアップというと負担が大きくなることもある。事業はこのままでよいが、継続していくのが難しい場合がある。また、新市長のビジョンとのすり合わせも必要である。
D委員	・協議会の活動を知ってもらい地域に浸透していくには、まだ時間が必要だと感じる。それぞれの地区でニーズが違うといった事情も考えると、委員を各地区から選出するような仕組みも必要ではないかと思う。
E委員	・協議会として何をしたいのか、あやふやなところがあるように思う。市長をリーダーとして、協働としてどういうことをやりたいのかというテーマが見えていないように感じている。

F委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地区には様々な団体があるが、人的に無理が生じている。複数掛け持ちの状態で、仕事を持っているとほとんど動けない。人が減り高齢化もあり、役員の選出ができない地域もある。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員から意見を伺った。会長から提案のあった3点と、ただ今の意見交換を踏まえて事務局で取りまとめ、意見書として市長に提出したいと思うがどうか。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1点よろしいか。この提案についてのスピード感があまり見えなかったが、現在の匝瑳市の出生率から見ると数十年後の人口が予測できる。予測した人口を頭に浮かべると、この地域の人たちだけでやっていくのは恐らく難しい。移住者であったり外部の人の力が必要になるが、どうしたらそうしたパワーをもらえるかを考えると、住みよいまちづくりを進めることが必要だが、住みよいまちになってからでないかと目を向けてもらえない。かなりスピード感を意識していかないと、先に人口が減ってしまい事業ができなくなってしまう。スピード感のあるプロセスが必要だと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・早急に手を打たないといけない。新市長には新しい感覚・感性でリーダーシップを発揮していただきたい。会長提案の3点と意見交換を踏まえた意見書を事務局で取りまとめ、市長に提出したいと思うがよろしいか。
<p>(委員から賛成の意思表示あり)</p>	
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、事務局で取りまとめて意見書を提出することとするので、よろしくをお願いします。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題には「匝瑳市市民協働等に関する市長への要望について」とあるが、この「等」について市長面談の際に伝えたことを申し上げる。市長及び市職員への要望として「三現主義」の実践をお願いした。三現主義とは、現場に出て、現物を見て、現実を知って行政を推進していくということで、これを強くお願いしたことを付け加えさせていただく。
<p>(2) その他</p>	
<p>《以降、会長を議長として議事を進行する》</p>	
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局で意見書を作成し、皆さんの賛同を得た上で市長へ提出していく。市民協働は、匝瑳市を元気にしたり、活性化させていく一つの手段である。目的をはっきりさせ、協働という手段をうまく使っていくことが必要である。では、その他について何かあるか。
<p>(特になし)</p>	
<p>6・閉 会</p>	
<p>以 上</p>	